

平成25年度 第3回 和光市協働推進懇話会 会議録

日 時： 平成26年2月24日（月） 14時30分～16時45分

場 所： 和光市役所 6階 603会議室

委 員：

学識経験者	◎平 修久（聖学院大学コミュニティ政策科長） ○谷本 有美子（公益社団法人神奈川県地方自治研究センター）【欠席】 庄嶋 孝広（市民社会パートナーズ 代表）
市民団体を代表する者	野口 章（和光市古民家愛好会）
公共的団体を代表する者	萩原 尚（和光市自治会連合会） 小川 澄子（和光市社会福祉協議会）
和光市協働推進庁内調整委員会	前島 祐三（和光市政策課）【欠席】
和光市協働推進ワーキング	上原 弘之（和光市秘書広報課）

◎会長 ○副会長

事務局：市民環境部 星野・市民活動推進課 深野・渡邊・新坂・大竹

傍聴者：3名

1 平成25年度実施協働提案事業の中間報告

【平会長】まず、事務局から報告願いたい。

【事務局】協働提案事業として今年度は2事業を実施中である。市民提案事業は「吹き矢で介護予防」（実施団体：NPO法人ぽけっとステーション、担当課：長寿あんしん課）、行政提案事業は「和光市ホームスタート事業」（実施団体：NPO法人わこう子育てネットワーク、担当課：こども福祉課）。それぞれ事業実施団体及び担当課から11月に中間ヒアリング報告書を提出してもらい、それを元に市民活動推進課を加えた3者で中間ヒアリングを実施した。両者の中間ヒアリング報告書とヒアリング内容を合わせたものが、今回の会議資料である。

【平会長】「吹き矢で介護予防」について質問・提案及び来年度行われる報告会の際、報告していただきたい事項があれば発言願いたい。

【庄嶋委員】中間ヒアリングの際に、来年度以降の展望について話し合われたか。

【事務局】団体は、サークルのサポートを行ったり、生きいきクラブや自治会等に吹き矢のレンタルを行うことで、吹き矢による健康促進をして行きたいと話している。担当課は、今後この事業を市の事業として継続して行けるかを検証することのこと。

【平会長】3ヶ所で開催されているが、この会場を選んだ理由はあるか。

【事務局】市内の中央、北地域、南地域それぞれで開催するよう場所を選んだとのこと。

【平会長】この事業の効果をどのように調査したか。また、具体的にどのような効果が得られたか。

【事務局】第1回、第2回それぞれでアンケートを行い、第1回で出された宿題を頑張った受講者からは、「唾液の分泌量が増えたことで、眠りが深くなった」等の意見があり、口腔機能の向上が見られた。また、吹き矢の成績の向上した人も多くおり、ここからも口腔機能が向上したことが分かった。

- 【平会長】吹き矢がなぜ、口腔機能の向上に効果があるのか。
- 【事務局】吹き矢をするには、噛む力であったり、腹筋等身体全体を使うことが必要。健康向上につながる軽スポーツとして、注目されている。
- 【庄嶋委員】報告会では、自治会や生きいきクラブ等のような属性の人が来たのか、また、受講のきっかけ等が把握出来ていれば発表して欲しい。
- 【平会長】続いて「和光市ホームスタート事業」について質問・提案及び来年度行われる報告会の際、報告してもらいたい事項があれば発言願いたい。
- 【庄嶋委員】この事業は、団体がノウハウを持っていないと遂行できないものだと思う。団体はどのようにしてノウハウを身に付けたか。
- 【事務局】昨年度まで3年間、県の事業として行われており、当該団体が事業遂行していた。また、当該団体の代表が、ホームスタートジャパンで活動していたこともあるため、ノウハウを持っている。
- 【野口委員】これらの対象者の対応は、保健センターや子育て支援センターで行っていないのか。
- 【事務局】保健センターや子育て支援センターでも、育児支援は行っている。しかし、ホームスタート事業は、育児により外に出るのも困難な状況の人を対象に行っている。
- 【平会長】ホームビジターに応募して来た人のうち、2名を断ったとの報告があったが、理由を聞かせて欲しい。
- 【事務局】ホームビジターになる為には、ホームビジター養成講座を全て受講する必要があるが、この2名はスケジュール的に困難であったとのこと。
- 【庄嶋委員】ホームビジターは、対象者の家を訪問したり、一緒に出かけたりと、大変近い距離で接するようだが、2者がマッチングしない例等はないか。
- 【事務局】団体にはオーガナイザーが3名おり、対象者とマッチングするホームビジターを選んでいる。
- 【庄嶋委員】今年度、協働提案事業として行なう中で、新たにホームビジターになった人の訪問総数を来年度の報告会で発表して欲しい。
- 【野口委員】ホームビジターは有償か。
- 【事務局】ボランティアである。

2 協働事業提案制度について

■行政提案への応募について

- 【事務局】市民提案に比べ、行政提案に対する市民の反応が薄い。平成24年度実施事業の応募は、3件募集のうち1件。25年度実施事業の応募は、2件募集のうち1件。26年度実施事業の応募は、1件募集のうち0件だった。改善方法について、案があれば意見をもらいたい。
- 【庄嶋委員】応じてくれそうな市民団体の当てがあって、募集しているわけではないと感じる。団体の活動内容を把握し、団体に問題を投げかける場をつくり、団体がその事業を行ないたいという気持ちになる場合、団体から内容の濃い提案がされると思う。行政が資金や労力をかけたくないのだろう、と捉えられるような提案には、やはり応募が少ないように思われる。

【野口委員】平成26年度実施事業として、「第三小学校交通指導員協働業務委託」の応募をしているが、市内に8校ある小学校の中で、なぜ第三小が選ばれたのか。

【事務局】担当課に確認したことをお伝える。交通指導員はシルバー人材センターから派遣されている。交通指導員は毎日生徒たちと顔を合わせるため、地元に住む人が交通指導員であれば、子どもたちとの関わりが更に深くなり、地域による子どもたちの見守りにもつながったりと、さらに有益なものとなる。第三小学校を担当する交通指導員は、第三小学校の学区外に居住する人であったため、今回、第三小学校を選択した。

【平会長】応募する際のテーマ名を、楽しいイメージのものにすると、効果があると思う。また、今までの行政提案テーマを見ると、行政の力だけで業務が執行出来そうなものが多く見られる。「自分たちの力でなんとかしたい。」という気持ちを刺激するようなテーマ設定があると良い。

協働提案制度を用いて提案された事業は、市の事業として遂行されるため、「第四次和光市総合振興計画」に沿ったものである必要があるが、市民がこの計画を理解していないケースは多く見られると思う。市民に計画の内容を知ってもらってから、提案募集を行うと、より内容の濃い提案がされると思う。

【上原委員】市内にどんな市民団体がいるかを、市職員が把握せずにテーマ設定をしている可能性もあると思う。各事業の担当職員は、自らの仕事に関わりのありそうな市民団体を把握していく必要があると思う。

【平会長】市民活動推進課では、活動団体一覧のようなものを持っているか。

【事務局】持っている。

【小川委員】社会福祉協議会でも、ボランティア団体の一覧を持っている。また、NPOネットワークが作成した「わコラボ通信スペシャル」も使用している。

■懇話会が評価を行う際に必要となる情報、書類

【事務局】平成26年度第1回協働推進懇話会内で報告会を開催する。評価を行う際に必要となる情報や書類があれば、ご提案いただきたい。

【庄嶋委員】目標とそれに対する達成度を明白に報告して欲しい。また、その達成度の根拠を示して欲しい。

【小川委員】事業を体験した、受益者の感想を多く報告して欲しい。また、文字よりも写真を多用し、事業をイメージ出来る報告にして欲しい。

【平会長】協働提案制度の採択事業候補を決めるのは、協働事業審査委員会であり、事業完了後の評価は当会が行っている。審査会に参加しておらずに、事業後の評価をすることをどう感じるか。

【庄嶋委員】審査に加わっていないことで先入観が無いため、率直に意見や質問が出来、評価をしやすかったと感じた。

【萩原委員】評価をするには、事業を見学するのが一番良いと思う。時間がある限りは参加したいと思う。

【平会長】事業を見学したい場合は、事業遂行に差し支えない範囲で、協働推進担当に要請することによって良いか。

【一同】賛成。

【 平会長 】 団体と担当課がそれぞれ提出する協働事業実績報告書において、「事業の受益者以外の市民全体の満足度の向上を感じられましたか。」という質問があるが、受益者以外の満足度を調査するには困難がある。来年度以降、変更を検討する必要があるのではないかと。

【上原委員】 報告会では、団体のみが発表をし、担当課は傍聴者側に座っていた。協働事業であるので、団体と担当課と一緒に発表した方が良いと思う。

【 一同 】 賛成。

3 その他

■平成25年度懇話会報告書の作成について

【 事務局 】 懇話会報告書案を事務局で作成し、委員に確認してもらった後、市長へ報告する、という流れで良いか。

【 一同 】 賛成。

■その他

【庄嶋委員】 市外から来ている委員は、市内の市民活動の状況を把握できていないという現状がある。懇話会内で話し合いをする際に、協働だけでなく、協働の基礎となる、和光市の市民活動の様子や現状が分かるようなものが資料としてあると、懇話会内で更に活発な意見が出ると思う。例えば、イベント等の様子が分かるものや、昨年度との比較等がある良い。